

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## 第7部

# 「潜在能力の科学」国際フォーラム *Human PSI Forum*

開催 2002年8月22日～27日、幕張にて

13回の「生命情報科学シンポジウム」を年2回ずつ主催して来た、  
当学会が、他の協力を得て、本分野で画期的な国際フォーラムを主催した。

国際総合研究機構 (*IRI*) (第8部内参照) が、フォーラムの事務局を担当。

9カ国から29名の外国人を含む総勢450名が結集し、  
予想を越えた盛況となった。

詳細は、国際生命情報科学会誌20巻2号がその予稿特集号として  
発行されている。和訳付は、国際版、約500頁、本体価格2,500円+税+送料。

この成果を受け継ぎ発展させてる目的で、2004年8月26日～29日に  
韓国ソウルにて、「こころと体の科学国際会議」を主催する(末尾参照)。

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

# Human PSI Forum “Human Potential Science” International Forum 『潜在能力の科学』国際フォーラム

— 物理・生理学的アプローチ —

Joint With

## 「こころと体の不思議」国際フォーラム 第14回生命情報科学シンポジウム(国際版)

2002年8月22～27日(木～火)

於：千葉市 幕張新都心 (財)海外職業訓練協会 OVTA (オプタ)

千葉県千葉市美浜区ひび野1丁目1番地 (財)海外職業訓練協会(OVTA)

TEL: 043-276-0211 FAX: 043-276-7280 開催中フォーラム事務局: 090-9157-6453

### メインテーマ:

気功等における特殊生体機能への物理学的、生理学的なアプローチ、超心理学現象、予防医学、代替・相補・伝統医療、統合医療、変性意識状態と特別な精神的活動

### プログラム:

海外招待者による特別招待講演、応募研究発表(口頭・ポスター発表)  
気功・武術など表演、放射線医学総合研究所 山本生体放射研究室 訪問、  
日本の伝統的な場所の視察・交流ツアー、レセプション

公用語： 英語と日本語 (日本語での口演可、OHP等は英語も書くこと、日英通訳付、  
但しポスターの前は除く)

コーディネーター： 山本 幹男 (放射線医学総合研究所 上席研究員、ISLIS 理事長)

企画委員会 委員長： 渥美 和彦 (東京大学名誉教授、日本学術会議 会員)

主催：国際生命情報科学会 (ISLIS)、(財)未来工学研究所 助成 日本財団

共催：Samueli Institute for Information Biology (米国)、特定非営利活動法人 国際総合研究機構 (IRI)

後援：日本代替・相補・伝統医療連合会議(JACT)、日本統合医療学会(JIM)、  
特定非営利活動法人 日本ホリスティック医学協会(JHMS)、日本超心理学会(JSPP)、  
人体科学会(SMBS)、日本催眠学会(JIH)、日本未病システム学会、  
日本歯科東洋医学会(JDSOM)、  
科学技術振興事業団(JST)、  
千葉市、(財)ちば国際コンベンションビューロー(CCB-IC)、他

寄付 (上記を除く、2002年8月1日迄分)：医療法人 修命会 土佐清水病院 丹羽耕三 院長、  
財団法人 エム・オー・エー健康科学センター 川合輝明 理事長、渡辺 日章、エスアール  
ルエス研究所 栗田昌裕 所長、医療法人社団 明徳会 福岡歯科 福岡博史 院長、井上  
電気株式会社 井上吏司 取締役社長、(株)シーエスシー 木下京子 代表取締役、長沼気  
流法研究所 長沼 雅美 所長

フォーラム事務局 国際総合研究機構 (IRI)

放射線医学総合研究所 山本生体放射研究室 内 IRI

〒263-8555 千葉市稲毛区穴川4-9-1

電話:043-206-3066 FAX:043-206-3069

お問い合わせは [iri@nirs.go.jp](mailto:iri@nirs.go.jp)

今後の詳細情報はホームページをご覧ください <http://wwwsoc.nii.ac.jp/islis>

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## Human PSI Forum 委員一覧

### フォーラム企画委員会

#### 委員長

渥美和彦 東京大学 名誉教授、  
日本学術会議 会員・第七部会 元部長、  
日本代替・相補・伝統医療連合会議 理事長、  
日本統合医療学会 代表

#### コーディネーター

山本幹男 国際生命情報科学会(ISLIS)理事長、  
特定非営利活動法人 国際総合研究機構(IRI)  
副理事長、  
放射線医学総合研究所 上席研究員

#### コ・コーディネーター

長谷川洋作 (財)未来工学研究所 常務理事・研究所長  
伊藤正敏 ISLIS 会長、IRI 理事、東北大学教授

### フォーラム組織委員会

#### 顧問

ISLIS 顧問  
IRI 推進会議

#### 委員長

伊藤正敏 (前記)

#### 副委員長

横浜征四 (財)未来工学研究所政策総合研究センター  
主任研究員

#### 委員

ISLIS 役員・評議員  
IRI 役員

#### 委員(海外)

Robert L. Morris 英国 エジンバラ大学  
ケストラ超心理学講座 教授  
Dick J. Bierman オランダ アムステルダム大学 助教授、  
ユトレヒト大学教授

#### 委員(後援学会)

渥美和彦 (前記)  
杉下守弘 日本超心理学学会 運営委員長、  
東京大学大学院 脳神経医学 教授  
遠藤俊吉 日本催眠学会 会長、  
日本医科大学 精神医学教室 主任教授  
帯津良一 特定非営利活動法人 日本ホリスティック  
医学協会 会長、  
帯津三敬病院 名誉院長  
春木豊 人体科学会 会長、  
早稲田大学人間科学部 教授  
福生吉裕 日本末病システム学会 常任理事、  
日本医科大学 客員教授、  
(財)博慈会 老人病研究所 所長  
高橋一祐 日本歯科東洋医学会 監事、  
東京歯科大学 名誉教授

### 「こころと体の不思議」国際フォーラム 企画委員会

#### 委員長

長谷川洋作 (前記)

#### 委員

横浜征四 (前記)  
近藤鉄雄 (株)新時代戦略研究所 代表取締役、  
元労働大臣、元経済企庁長官、  
IRI 推進会議

岡崎久彦 (株)博報堂 特別顧問、  
岡崎研究所 所長、元大使、  
IRI 推進会議

町好雄 東京電機大学大学院 教授、IRI 理事  
河野貴美子 日本医科大学 情報科学センター、  
IRI 理事

山本幹男 (前記)

### フォーラムプログラム委員会

#### 委員長

山本幹男 (前記)

#### 委員

伊藤正敏 (前記)  
町好雄 (前記)  
河野貴美子 (前記)  
樋口雄三 東京工業大学大学院 教授、  
ISLIS 常務理事、IRI 理事  
小久保秀之 ISLIS 理事、事務局長、編集部長  
Robert L. Morris (前記)  
Dick J. Bierman (前記)

### フォーラム事務局 IRI

#### 事務局長

小久保秀之 (前記)

#### 事務局員

渋谷真由美  
橋本和江  
藤田真理子



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## Human PSI Forum

『潜在能力の科学』国際フォーラム  
－ 物理・生理学的アプローチ －  
joint with 「こころと体の不思議」国際フォーラム  
and 第14回生命情報科学シンポジウム (国際版)

於：(財) 海外職業訓練協会(OVTA)



国際フォーラム吊看板



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

8月23日（金）視察・交流ツアー 独立行政法人 放射線医学総合研究所  
山本生体放射研究室 視察・研究交流



放射線医学総合研究所 山本生体放射研究室 実験棟（多目的棟）前にて 集合写真



山本生体放射研究室 実験棟 視察



研究交流 大会議室にて

● 8月23日（金）視察・交流ツアー 成田山、房総の村



成田山にて



房総の村にて



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

8月23日（金）オープニングカクテル（OVTA ラウンジにて）



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

● 8月24日(土)「こころと体の不思議」国際フォーラム



フォーラム会場 (OVTA レセプションホール渚)



朝の気功体験実践 (指導：帯津良一)



表彰式



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。



海外からの招待者によるパネルディスカッション



徐 蘭許



ディック・J・ビールマン



全 世一



ロバート・L・モリス



劉 天君



ディーン・ラディン



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

● 8月25日(日)～8月26日(月)

**Human PSI Forum "Human Potential Science" International Forum**

「潜在能力の科学」国際フォーラム& 第14回生命情報科学シンポジウム(国際版)



朝の気功体験実践(指導:劉超)



講演学会代表者 パネル討論



河村建夫 衆議院 文部科学副大臣 ご挨拶



ポスター会場



表演 一刀流



「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

8月26日（月）懇親会





「潜在能力の科学」国際フォーラム

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

● 8月27日（火）サテライト・ワークショップ

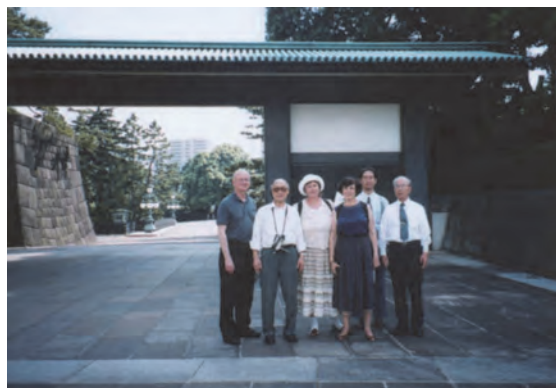


● アフターツアー 見浜園



見浜園 茶房にて

● アフターツアー 皇居



浅草寺にて

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## 「潜在能力の科学」国際フォーラム 趣意と総括

Prospectus and Summary of *Human PSI Forum*,  
*"Human Potential Science" International Forum*

要旨：国際生命情報科学会 (*ISLIS*) と財団法人 未来工学研究所の主催で、*Human PSI Forum*, "Human Potential Science" International Forum『潜在能力の科学』国際フォーラムー物理・生理学的アプローチ joint with 「こころと体の不思議」国際フォーラム and 第14回生命情報科学シンポジウム (国際版) を日本の千葉市 幕張 OVTA で2002年8月22日ー27日に、450名、9カ国からの参加を得て開催し、成功した (予稿は、*Journal of ISLIS*, Journal of International Society of Life Information Science Vol.20, No.2, 2002 に掲載)。

2004年8月には、この成果を発展させる国際フォーラムのソウルでの開催が計画されている。

### 趣 意

#### 科学の最前線

20世紀までの科学技術は、主として心・精神・意識から独立した、客観的物質世界を研究対象とするというパラダイム (枠組) を築き、その旗の下に大きな成果をあげてきました。反面、心・精神・意識が関与する様々な現象の研究は、重要にもかかわらず、政官学の対象外に置かれ、その結果、積極的に研究されずに大きく取り残されてきたと言えます。

しかし、今世紀においては、心・精神・意識の研究こそが、まさに科学の最前線であり、最も重要な研究分野なのです。この分野には、気功、瞑想、笑い、音楽、香り、森林浴など、人間のリラックス、予防医科学、健康の維持増進、癒しや自然治癒力など人間の「潜在能力」と深く関わっているものがたくさんあります。すなわち、潜在能力を研究することは、多くの人が待ち望んでいる新しい医療の基礎を研究することにもなります。さらに、21世紀の科学技術と文化の新パラダイムを生み出すと共に、教育、健康、福祉と社会および個人の心の豊かさを増進させ、自然と調和した平和な社会作りにも役立つことが期待できます。



2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## こころと体の不思議

人間の潜在能力には、まだ、よくわかっていない多くの事柄があります。中には、20世紀の科学技術では説明が付きそうもない不思議な現象があるとも言われています。その謎をひとつひとつ解き明かすためには、学際的・国際的に英知を結集し、さまざまな角度から研究し、討論を重ねる必要があります。

## 近年の活動

「潜在能力」に対する日本の研究活動は、最近20～30年間に徐々に活発化してきました。特に、1970年代以降は、特異能力ブームや気功ブームの影響で、「潜在能力」に対する新たな関心の高まりと実践の広まりがあり、科学的・学術的研究をめざす学会の設立も相次ぎました（*Journal of ISLIS* 20(2) 337頁参照）。1995年からは放射線医学総合研究所の研究室を中心に、「潜在能力」の科学的研究に日本の国や公的予算が配分されました（331,337, 340頁）。またこの分野専門の国際生命情報科学会（*ISLIS*）が設立され（279,282頁）、年2回の「生命情報科学シンポジウム」の開催（本フォーラムはその第14回にあたる）、英文（和訳付）の学会誌の発行（*Journal of ISLIS*、本フォーラムの予稿集もこの20巻2号に掲載）などで一段と科学的研究が活発化しました。また、国際的な代替医療への関心の高まりの中で、1998年には日本代替相補伝統医療連合会議（JACT）が、2000年には日本統合医療学会（JIM）が設立され活発な活動を行っています（303頁）。これらの学会の多くは、本フォーラムの後援などでご協力頂きました。

一方、海外においても特異能力、気功、代替医療など「潜在能力」に関する関心が高まり、多くの実践や科学的研究と様々な会議が行われてきました。日本からも多くの研究者や市民が海外の活動への参加や視察、学会への参加や共同研究で交流を深めてきました。日本では2001年に、科学技術振興事業団の主催により異分野研究者交流フォーラム—新パラダイム創成に向けて—「こころと精神の関与する科学技術」および「統合医療フォーラム」が開催されました。

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## 総 括

本 Human PSI Forum は、これらの成果を土台にして、これらの活動を支えてきた国内外の有力研究者、学会、公的・準公的および民間の諸機関や市民の力を結集して、研究や実践を通じて得られた新しい知見を発表し、学際的・国際的に検討する画期的なフォーラムとして、2002年8月22日(木)から27日(火)まで千葉市 幕張新都心 (財) 海外職業訓練協会(OVTA)で開催されました。

本フォーラムの本会議の第1日目の24日は、「こころと体の不思議」と題して広く市民にも参加を呼び掛けました。海外からを含め日本人以外が約30名で、総勢450名と予想をはるかに越える多くの方々のご参加を頂きました。また、日本国の元大臣、国会議員、衆議院文部科学委員長(前後は文部科学省副大臣)や日本学術会議会員、公的・準公的機関、民間などの要職の方々もご参加下さり、ご挨拶を頂きました。皆様方のご協力に感謝致します。

6人の海外からの招待特別講演を含む、68題の学術的講演や研究発表と海外招待講演者および後援学会代表者による2つのパネルディスカッション、10の表演、ワークショップ、研究所視察、交流、ツアーなどが活発に行われました。

最終日のサテライト・ワークショップで海外から参加された研究者の評価を頂きました。本フォーラムに対しては高い評価を受けました。ただし、討論の時間がもっと欲しかったとの意見が多くでました。日本の研究に対しても高い評価を受けると共に、対照群や西洋的手法ももっと広く取り入れるべきであるとの意見もでました。

本分野の研究の益々の発展が、予防医学や統合医療の基礎を築き、また新パラダイムを創成する可能性が高いことが確認されました。

米国の国立衛生研究所(NIH)では、その National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM)などを通じ、補完代替医療の研究のための2003年度予算約336億円の例を始め、いくつかの国では、既に本分野に力を入れて予算を配分しています。

今後の「潜在能力の科学」分野の研究の発展に必要な事項を列挙します。

1. 「潜在能力の科学」の研究予算を拡充すること。
2. 他の大型研究予算体系の中に、新パラダイム創成に向けての本分野(精神



2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

- エネルギーや、潜在能力の物理生物学、伝統的健康法および心身鍛錬法、精神心理療法、など)の領域を創ること。
3. 本分野の研究を恒常的に行える「精神エネルギー研究所(仮称)」や「潜在能力科学研究所(仮称)」を早急に設立すること。
  4. 西洋医療を中心として、代替医療を包括する統合医療への取り組みを強化し、研究を推進すること。
  5. 統合医療に関連する大学の設立や、学部、学科、講座、大学院の早急な増設。
  6. 本分野の、学際的・国際的な関連学会や研究機関との交流のための予算強化。

なお、2004年8月下旬には本フォーラムの続きの国際フォーラムを韓国ソウルにて開催する計画もされています。

本フォーラムの成果が人間や生体のもつ潜在的可能性を明らかにし、私たち人類の健康で平和な社会作りに貢献することを期待しています。

最後になりましたが、本フォーラムの開催の成功のために、ご指導、ご支援下さいました方々、お骨折り下さいました諸機関や多くの方々に深く感謝申し上げます。

また、科学技術振興事業団、日本財団をはじめ、広く日本の公的・準公的機関ならびに民間団体・会社および個人、ならびにアメリカの研究所 Samueli Institute for Information Biology より、貴重な資金のご提供を賜りました事を深く感謝申し上げます (Journal of *ISLIS* 20(2) 275 頁)。

2003年1月31日

### **Human PSI Forum**

- |            |  |
|------------|--|
| 企画委員長      | 渥美 和彦<br>日本学術会議 会員<br>東京大学 名誉教授  |
| コーディネーター   | 山本 幹男<br>国際生命情報科学会 ( <i>ISLIS</i> ) 理事長<br>国際総合研究機構 ( <i>IRI</i> ) 副理事長<br>放射線医学総合研究所 (NIRS) 上席研究員 |
| コ・コーディネーター | 長谷川 洋作<br>財団法人 未来工学研究所 常務理事・研究所長   |
| コ・コーディネーター | 伊藤 正敏<br>国際生命情報科学会 ( <i>ISLIS</i> ) 会長<br>東北大学 教授  |

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載  
肩書き等は当時のものです。

## Human PSI Forum

2002年8月22日～27日 幕張 OVTA

### 参加者数まとめ

2002年10月23日

皆様の献身的ご協力のおかげをもちまして、予想を大幅に上回る盛会となり、海外からの参加者からも高い評価を得ることができ、すべて手作りで不備なこともあったと事と思いますが、基本的には大成功したといえると思います。

会場定数 225 名、参加目標 220 名に対し、会期が近づくと参加申込みが急増し、椅子席を最大限に増やし 300 名近く入る体制をとりましたが、それもオーバーすることが判明し、1 週間前からは申込受付終了のホームページ掲載と申込みの電話に対するお断りの処置をとりました。

<人数> (名前の数で、延人数ではありません。)

総人数 約 450 名  
(朝の体験実践のみの参加者も含む)

会場総人数 420 名  
(受付スタッフ等 14 名含む)

参加者数 406 名  
(招待、表演、展示、取材、  
会場スタッフなど含む。  
受付スタッフ 14 名除く)

\*受付・会場両方担当したボランティアは会場スタッフとする。

<内、外国人> 8 カ国 (日本を含め 9 ヶ国参加)  
海外からの外国人 19 名

(アメリカ、イギリス、オランダ、ロシア、中国、韓国)

内、招待者 6 名  
国内からの外国人 10 名

(アメリカ、イタリア、ブラジル、中国、韓国)

合計 29 名 (国籍非明示者を除く)

<日別>

8/23 (金) ツアー午前 (放医研) 60 名  
(スタッフ 14 名含む)

ツアー午後 (成田方面) 33 名  
(スタッフ 2 名含む)  
オープニングカクテル 約 70 名

8/24 (土) 朝の体験実践 約 90 名  
「こころと体の不思議」  
総人数 362 名  
参加者数 341 名

8/25 (日) 朝の体験実践 約 50 名  
*Human PSI Forum*  
総人数 209 名  
参加者数 191 名

8/26 (月) 朝の体験実践 約 40 名  
*Human PSI Forum*  
総人数 207 名  
参加者数 194 名

懇親会 約 70 名  
8/27 (火) サテライト・ワークショップ 40 名  
(スタッフ含む)